

# 活動



**Seibo**  
Feeding the Future

# 報告書

Activity Report 2024

---

特定非営利活動法人 聖母

2024年（1月~12月）





# 活動報告書 2024 CONTENTS

---

## 感謝のメッセージ

### 団体概要

- せいぼ
- MobellとKrizevac

### 2024年のマラウイ

- 活動概要
- マラウイの子どもたち
- マラウイチーム
- ハイライト

### 2024年の日本

- 活動概要
- 教育事業
- コーヒー事業
- 支援企業の皆様
- 日本チーム
- 表彰実績
- イベント

### 今後に向けて

- ターゲット
- 最後に

### 編集方針

活動報告書2024は、該当年度内における、せいぼじゃぱん、せいぼマリアの活動を各ステークホルダーの皆様へ、より深く理解していただくことを目的としています。

また、法人名等は敬称略とさせていただきます。ご了承ください。

<対象期間>2024年1月1日~12月31日





# 感謝のメッセージ

せいぼじゃぱん  
理事長・代表  
山田真人



今年は特に企業、学校様の支援を多く受けた年になりました。

皆様のご支援に、とても感謝しております。マラウイという遠い国にも関わらず、多くの方がせいぼの活動に共感をしてくれ、寄付や時間を使って頂くことで一緒に活動をして頂きました。これからも、どうぞよろしくお願ひします！

せいぼマリア  
プログラムマネージャー  
ビクター・ムトゥロ



2024年にご支援いただいた支援に、心より感謝申し上げます。皆様からのご支援により、ムジンバとブランタイヤの合計18,446人の子どもたちに、3,041,810食の給食を提供することができました。これらの子どもたちは、空腹のまま学校に通うことが多い状況にありますが、皆様のおかげで、学校では温かいリクニパーラがいっぱいに満たされたカップを受け取ることができ、空腹のまま過ごすことはありませんでした。

本当にありがとうございました。「Zikomo kwambiri (チェワ語で『本当にありがとう』)」

せいぼニュースレターでは毎月  
活動報告を行なっています  
ぜひご登録ください  
[www.seibojapan.or.jp](http://www.seibojapan.or.jp)





## 団体概要

---



# せいぼについて



「せいぼ」は、日本を拠点に活動を行うNPO法人 聖母（せいぼじゃぱん）と、マラウイを拠点に活動を行うせいぼマリアの2団体の総称です。2団体がパートナー団体として協力体制をとりながら、日々活動を行っています。

## せいぼとは

「お腹を減らしているすべての子どもに給食を！」

私たちはアフリカ・マラウイで学校給食支援を行う非営利団体です。マラウイ北部・南部の小学校、幼稚園、CBCC（地域主体の子どもセンター）で日々子どもたちに学校給食を提供しています。また日本では、学校給食支援のためのファンレイジング活動を主としつつ、日本でのチャリティ文化の拡大、国際支援の輪を広げていくために学校や企業と提携しながら日々活動を行っています。私たちは学校給食支援を通して、子どもたちの栄養状態改善、また学校に通うきっかけを創り出し、子どもたち、そして社会のより良い未来を目指しています。

## 理念

ビジョン：子どもが自分の力を発揮する社会の実現

ミッション：

- 学校給食支援を通じて、飢餓のない世界を実現する
- 貧困課題を通して、国際課題の発信をする
- 日本の人々と協働しチャリティ文化を広げる
- 企業、学校などの組織と価値観を共有し、協働する



## 沿革

2015：せいぼマリア設立

せいぼじゃぱん設立

2018：寄付型コーヒーズブランド

「Warm Hearts Coffee Club」運営開始

2020：教育機関との提携開始

チャリティやソーシャルビジネスが学べる  
オンラインコースをリリース

2022：公益財団法人社会貢献財団より

社会貢献者表彰受賞

2024：一般社団法人ソーシャルプロダクツ普及推進協会より

ソーシャル・プロダクツ賞を受賞。



詳しくはウェブサイトをご覧ください  
[www.seibojapan.or.jp/](http://www.seibojapan.or.jp/)



# MobellとKrizevac Project



日本やイギリスで事業を展開するイギリスの通信事業会社であるMobell Communications Ltd.の出資するチャリティ団体、Krizevac Projectによってせいぼの活動は開始されました。そして現在でもせいぼマリアは一部、Krizevac Projectの支援によって運営が行われています。

\*英国政府公認 チャリティ登録番号 No: 1115608

## Krizevac Project

詳しくはウェブサイトをご覧ください  
[www.krizevac.org](http://www.krizevac.org)



Krizevac Projectはマラウイを中心に、ナイジェリア、ルワンダなどの地域で様々な活動を行っています。その活動は多岐に渡り、主に雇用創出、質の高い教育の提供、現地のキリスト教的価値観に基づいたコミュニティ作りなどがあり、せいぼの活動はそれらの活動の一角に当たります。雇用創出については、様々なソーシャルビジネスを現地で立ち上げるとともに、IT教育などを含む職業訓練施設の設立・運営などを行い、地域の雇用創出及び経済活性化の一端を担っています。



マラウイ全国の企業・団体に  
重機レンタルビジネスを行う“Torrent”  
マラウイで最初に立ち上げたビジネス



南部ブランタイヤ地区・チロモニに位置する  
教育キャンパス  
“Mary Queen of Peace Catholic Institute”

またKrizevac Projectは質の高い教育の提供にも力を入れています。

その代表例として、南部ブランタイヤ地区チロモニに位置する大規模な教育キャンパス、“Mary Queen of Peace Catholic Institute”の設立・運営があります。この教育キャンパスは幼稚園である“Mother Teresa Catholic Nursery School”、小学校の“St. Kizito Catholic Primary School”、高校の“Carlo Acutis Catholic High School”、そして大学の“St. John Paul II Leadership & IT College”の、幼稚園から大学までが一つのキャンパスに同居する施設です。現在合計約1,000人の子どもが在籍しており、その中でもせいぼは幼稚園と小学校の子どもたちに対して学校給食を提供しています。また、せいぼの南部事務所も同キャンパスに位置しています。



A group of young school children in green and white uniforms are gathered outdoors. The child in the foreground is smiling broadly and holding a green cup filled with a yellowish liquid. Other children are visible in the background, some looking towards the camera. The setting appears to be a schoolyard or a similar outdoor area with trees and a fence in the distance.

2024年のマラウイ

---



# 活動概要

## 活動ハイライト

### 支援給食数



約**304万食**

### 支援児童数



約**1.8万人**

### 支援学校数



**57校**

2024年マラウイでは、北部ムジンバ地区、そして南部ブランタイヤ地区、合計57校の小学校、幼稚園、CBCC（地域子どもセンター）にて、約1.8万人の子どもたちに学校給食を提供しました。今年1年間では合計約304万食の学校給食をせいぼマリアチームが主体となり、各学校のボランティアスタッフや教職員などの皆様と共に提供することができました。

子どもたちにとって学校給食は、日々の大切な栄養源であり、学校に通い続ける理由の一つでもあります。そのような重要な学校給食を継続的に多くの子どもたちに食べてもらうことで、子どもたちやその家族にとって大きなポジティブな影響が生まれていると私たちは信じています。

## 活動詳細

### 概要

北部ムジンバ地区では12校の小学校、南部ブランタイヤ地区では28校の幼稚園・17校のCBCCにて学校給食を提供しました。年間の開校日の平均約1.8万人に対して、学校給食を提供しました。

### 支援方法

せいぼマリアはマラウイ国内において二つの事務所を拠点としており、北部ムジンバ地区、南部ブランタイヤ地区に位置しています。それぞれの事務所には常勤のスタッフがおり、日々学校への給食の配布や記録、給食の調理方法や管理方法の指導、衛生環境の確認、それぞれの学校での課題の確認などを行なっています。

実際に給食を提供するのは各学校のボランティアで、各学校の在庫の管理等は各学校長及び村長などが行なっています。





# マラウイの子どもたち

## Story 1



## ティクウェレ幼稚園に通うせいぼキッズ (母親)

「私の娘がティクウェレ幼稚園を卒業し、せいぼの支援のおかげで小学校に進む準備が整いました。シングルマザーとして、多くの困難に直面しましたが、せいぼは私の子どもに無償で教育、栄養豊富な食事、そして制服を提供してくれました。子どもが学校にいる間、私は小さなビジネスに集中する時間が持て、家族を支えることができました。

せいぼのおかげで、娘は学校に通い続け、大きな進歩を遂げました。アルファベットの暗唱、1から100までの数え方、読み書き、友達との交流といったスキルを習得しました。彼女は小学校に向け十分に準備ができており、学業で優秀な成績を収めると確信しています。

せいぼが娘の未来に投資してくれたこと、そしてそれを可能にするための貴重な支援に深く感謝しています。」

せいぼキッズとは：

特に経済的、物理的に通学が困難の家庭な子どもたちに対してせいぼが提供する、奨学金制度に類似した制度。受け入れ先の学校をせいぼが確保、通学に必要な備品などを支給する代わりに、受け入れ先の学校の子どもたち全員に対して学校給食を提供しています。年間約70名程度を支援しています。

## Story 2



## チャングルベ小学校に通う7年生

チャングルベ小学校に通うある7年生の生徒は、かつて学校を中退する危機に直面していました。原因は栄養不足で、彼女が教育を受け続けることはほぼ不可能でした。彼女は1年生からチャングルベの生徒でしたが、出席が不規則で成績が悪かったため、学年を繰り返さざるを得ませんでした。しかし、せいぼの学校給食プログラムの導入により、状況は一変しました。

今では、彼女は毎日学校に通うことを楽しみにしており、長期休暇が嫌いになるほどです。なぜなら、彼女は教育を受けると栄養豊富な給食を恋しく思うからです。

新学年の初日、彼女は休暇中に学校が恋しかったと述べました。「とても長い休暇で、私は学校が恋しかったです。今、私はおいしい給食を食べられる学校に戻り、教育を受けられることがとても嬉しいです。」と嬉しそうにスタッフに語ってくれました。

その他のストーリーは  
こちらから  
ご覧ください

[www.seibojapan.or.jp/stories-from-malawian-families-2024/](http://www.seibojapan.or.jp/stories-from-malawian-families-2024/)



# マラウイチーム

## 概要

マラウイで活動するせいぼマリアは現在、北部ムジンバに4名、南部ブランタイヤに3名の合計7名のスタッフによって運営されています。

プログラムマネージャーの元、財務・管理担当、給食支援管理者、コミュニケーションズオフィサーが協力して活動を行っています。またコミュニケーションズオフィサーを通じて、せいぼじゃぱんや様々なステークホルダーの皆さんと密な連携をとっています。

## スタッフの主な業務

- 給食原料の発注・配送手配
- 学校への給食調理・保管方法等の指導
- データの収集
- 予算策定、資金管理、計画策定
- 写真や映像の記録
- 地域や教育関係者との連携



## 新規スタッフ



チャンシー

地区：ムジンバ  
役職：給食支援管理者  
採用時期：2月



ダーウィン

地区：ムジンバ  
役職：給食支援管理者  
採用時期：2月



ジェームス

地区：ブランタイヤ  
役職：財務・管理担当  
採用時期：11月



# マラウイチーム

## Staff Focus

### コミュニケーションズオフィサー フューチャー・ナマチャ



#### Q. せいぼでの役割について教えてください

A. 私は、せいぼマリアのコミュニケーションズオフィサーとして以下の役割を担っています。

- 寄付者の皆様や内部利用のために学校から情報を収集
- せいぼの活動の影響力を広めるためのコンテンツの作成
- ソーシャルメディアの運用を通じたステークホルダーとの繋がりを深めること
- 月次レポートの作成
- 各種資金調達活動
- 各ステークホルダーへのプログラムの紹介

#### Q. せいぼマリアで働くことになった経緯と、現在のモチベーションを教えてください

A. キリスト教徒として、「お腹を空かせている人に食べ物を与える」という聖書の教えに深く心を動かされました。せいぼで働くことで、この使命を有意義な形で果たすことができていると感じています。一人では助けられる人に限りがありますが、せいぼの一員として、多くの困っている人々の生活に大きな影響を与えることができます。

最大のモチベーションは、学校給食が貧しい家庭の子どもたちの教育に与える素晴らしい効果を目にすることです。私たちの取り組みが、子どもたちに希望を与え、学びの場を提供していると知ると、心が温かくなり、毎日さらに努力しようという気持ちになります。

#### Q. 2024年はどのような年でしたか

A. 2024年は、せいぼマリアにとって非常に成果の多い年でした。目標の90%以上を達成し、給食提供率は80%を超えています。

これらの成功は、寄付者の皆様のご支援なしには実現できなかったことです。この場を借りて、私たちのミッションにご協力いただいたすべての方々から感謝申し上げます。皆様のおかげで、多くの子どもたちの生活に有意義な変化をもたらすことができました。

#### Q. 寄付者の皆様へのメッセージをお願いします

A. いつも皆様の素晴らしい寛大さと変わらぬご支援に、心より感謝申し上げます。マラウイの子どもたちへの愛と親切心は、言葉では表せないほどのものであります。

皆様のご支援は、子どもたちの夢を育み、希望を与え、自らの可能性を信じて未来を切り開く力を与えています。

せいぼの全スタッフを代表して、皆様と共にこの道を歩めることに感謝いたします。神様が皆様を豊かに祝福し、多くの命に変化をもたらしている皆様の行いに報いてくださいますよう、お祈りしています。



# 1年のハイライト

## 事務・モニタリング

### 監査と会計管理の強化

6月には2023年度の監査を実施し、財務の透明性を確保しました。また、2023年の年次報告書を作成し、関係者への報告を行いました。さらに、CBCC向けにタブレットを活用したデータ収集の仕組みを導入するための覚書を策定しました。

### 給食の品質管理

8月には給食の原料であるリクニパーラの品質試験を実施し、安全で栄養価の高い給食の提供を確認しました。さらに、在庫管理システムを開発し、給食プログラムのより効果的な運営を目指しました。加えて、各年代に適した給食の分量を見直すための測定を実施しました。



児童に給食についての聞き取りをする  
プログラムマネージャー



給食の粘度を確認する  
プログラムマネージャー



幼稚園児の給食適正量を測定する様子



移動のために購入したバイク

マラウイでの様子については  
こちらの動画もご覧ください  
[www.youtube.com/watch?  
v=YaJEu\\_fevMQ](https://www.youtube.com/watch?v=YaJEu_fevMQ)





# 1年のハイライト

## 物資の配布

### 以下の物資を学校に配布しました

- 在庫管理帳簿・出席帳・文房具
- 食事用マグカップ（12校：2,650個）
- 石鹸（24箱）



石鹸を受け取る児童と先生



マグカップを受け取る子どもたち

## 学校・地域との連携

### ムジンバ地区学校関係者とのミーティング

3月26日、小学校12校の代表者、地域教育局長、県知事、栄養調整委員会、児童保護機関、ムジンバ病院の代表が参加する会議を開催し、給食プログラムの成功事例や課題を共有しました。



ミーティングの様子



参加者の集合写真

# 1年のハイライト

## 学校・地域との連携（続）

### ブランタイヤ地区幼稚園関係者とのミーティング

幼稚園長向けに、MOU（覚書）やその他の手順に関する研修を実施しました。また各幼稚園・CBCCCで直面している課題を共有し、解決策を議論しました。

### ブランタイヤ地区せいぼキッズ保護者との意見交換

4月19日、せいぼキッズ保護者フォーラムを開催し、多くの保護者が参加しました。保護者は学校の園長と共に、学校での取り組みや個々の課題についての支援を求めて意見を出しました。



幼稚園関係者ミーティング参加者



せいぼキッズ保護者との意見交換の様子

### 各学校との連携

#### カトンドCBCCC（一例）

5月17日にカトンドCBCCCでコミュニティとの会議を開催し、給食プログラムの重要性と課題を議論しました。保護者は給食の調理に参加したい意向を示し、掃除や調理を支援することに同意してくれました。また、プログラムによって子どもたちの健康改善が見られていることを喜ばしく思う声もありました。



カトンドCBCCCでのミーティングの様子



マテウ小学校でのミーティング参加者



# 1年のハイライト

## 行政との連携

### 政府関係者との共同モニタリング

6月21日、教育省との関係と調整を強化するための一環としてムジンバ地区の学校保健栄養コーディネーターと共に、プログラムのモニタリングと監督を行いました。

このモニタリング以外にも様々な会議などを通して、行政との連携を図っています。



せいぼスタッフと教育省職員



せいぼスタッフ、学校関係者と教育省職員

## コーヒー農園訪問

### ミスク農協を訪問

10月29日、マラウイ北部チティパに位置し、Warm Hearts Coffee Clubのコーヒーの生産が行われている、ミスクコーヒー農協を訪れました。ミスクは758名の農家が16のゾーンに分かれて組織されています。協同組合のマネージャーとそのゾーンに属する農家のグループと面会し、農園の見学しました。



せいぼスタッフと農協関係者



農園で作業をする農家の様子



MALAWI COFFEE  
WARM HEARTS  
COFFEE



欠かコーヒーで  
がまたちに給食を



# 2024年の日本



www.warmheartscoffee.com  
**MALAWI COFFEE**  
**FREE DRINK!**  
• 100% Arabica Beans  
• Fair Trade  
• 100% Organic  
• Subtle Acidity and Rich Flavor  
• 100% Donation for Children in Malawi  
YOU CAN ORDER ONLINE!  
• Free Delivery  
• Roasted and Shipped Same Day!  
WARM HEARTS  
www.warmheartscoffee.com



NPO法人せいぼじゃぱん





# 活動概要



寄付金総額  
¥23,468,151



内訳



## 寄付及び教育事業

私たちの活動をご支援ください  
[www.sebojapan.or.jp/donate/](http://www.sebojapan.or.jp/donate/)



今年もマラウイの子どもたちの学校給食の寄付として、多くの企業・団体、個人の皆様、そして教育事業を通して様々な教育機関より寄付をいただきました。

特に教育事業に関しては、昨年度より継続して授業に関わらせていただいた学校や、今年より新たにプログラムが始まった学校など、日本全国の学生の皆様と共にせいぼの活動を盛り上げていくことができました。

また、支援企業の皆様には継続して、多大なるご支援をいただいております。改めて御礼申し上げます。今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。



## コーヒー事業

コーヒーや紅茶などの商品は  
こちらよりお求めください  
[www.charity-coffee.jp](http://www.charity-coffee.jp)



せいぼの運営する寄付型コーヒーブランド、Warm Hearts Coffee Clubの商品購入を通しての寄付を多くいただきました。

定期購入を含むオンライン販売をはじめ、イベントでの販売、教育プログラムの一環として文化祭等のイベント等での販売など、例年より引き続き多くの方々にコーヒーを通じて、マラウイの子どもたちへ寄付をいただきました。

### 【お知らせ】

2025年1月よりコーヒー事業Warm Hearts Coffee Clubは、一般社団法人聖母に移管することとなりました。なお、商品の売り上げは継続してNPO法人聖母を通じて、マラウイでの学校給食支援に充てられます。

# 教育事業

## 概要

NPO法人せいぼでは、学校教育と連携し、探究学習や課外活動を幅広く展開しています。本事業の目的は、学生が地域や世界の課題を主体的に捉え、持続可能な社会の実現に向けて行動できるようサポートすることです。

現在、日本ではチャリティーへの意識がまだ十分に根付いていないという課題があります。そこで、私たちは日本の若い世代にチャリティーの精神を広めることが重要であると考えています。この取り組みを通じて、マラウイの子どもたちを支援するだけでなく、日本国内でも新たな価値観や行動を生み出すことを目指しています。

NPO法人せいぼの教育事業は、単なる知識の習得にとどまらず、「考える力」「共感する力」「行動する力」を育むことを大切にしています。これにより、生徒一人一人が地域や世界における変革の担い手となり、未来に向けた持続可能な社会づくりに貢献しています。



02 マラウイについて

### マラウイとは？

- ・ アフリカの内陸国
- ・ 治安が良く、紛争がない
- ・ 子供の人口が大半
- ・ 最貧国の一つ

03 WHCCについて

### コーヒーを通じた学生の関わり方

支援企業と繋がる

マラウイの子どもたちへ

WARM HEARTS COFFEE

コーヒー購入者を増やす



実際に使用している教材例



# 教育事業

## 教育の相乗効果

# 教育事業による寄付金総額 (コーヒー売上含む) ¥10,288,125

### マラウイの教育の向上と日本の教育の進化・多様化を同時に

2024年私たちは教育事業を通して、授業料やコーヒー販売での売り上げを含む約1,029万円の寄付をいただきました。この教育活動によっていただいた寄付はマラウイでの学校給食支援につながっており、マラウイの子どもたちの教育の機会の提供にもつながっています。

また、マラウイやNPOの活動などを教材のテーマとすることによって、マラウイでの活動が日本の教育で活かされ、それがまた学校給食支援につながるという、教育による相乗効果が生まれており、その効果は循環しています。

### 学校給食支援を通じた、 両国での教育の向上のイメージ



各学校の事例については  
こちらをご覧ください  
[www.charity-coffee.jp/school](http://www.charity-coffee.jp/school)



# 教育事業

## 授業内容



### 1. マラウイについての学習会・ワークショップ

コーヒーの産地として知られるマラウイについて、学習会やワークショップを通じて理解を深めます。クイズ形式などを活用し、楽しく学べるよう工夫しています。

### 2. 調べ学習と販売の準備

生徒たちは調べ学習を行い、マラウイ産商品に関する情報を集めます。その後、商品の準備や販売計画を立てるなど、販売活動に向けた具体的な準備を進めています。

### 3. 商品のプロモーション・販売活動と寄付

実際に商品を販売し、売り上げの一部をマラウイ支援のために寄付します。このプロセスを通じて、販売活動や寄付の意義を学びます。

### 4. オンライン交流と活動への参加

マラウイの現地スタッフや子どもたちとZoomを使ったオンライン交流を行います。英語を使ってコミュニケーションを取ることで、支援先の人々と直接つながる貴重な体験となります。また、日本のスタッフとの活動を通じて、より具体的な支援内容に触れる機会も提供しています。



授業ではまず、NPOとは何かについて説明しています。名前は知っていても、その具体的な活動内容について知らない学生も多いため、NPOの役割や目的を丁寧に紹介しています。

次に、NPO法人の中でも、NPO法人せいぼの活動内容や信念についてお話しし、活動への理解を深めます。また、日本での認知度がまだまだ低い、マラウイについても紹介しています。マラウイがどのような国であるかを楽しく学べるよう、クイズなどを交えながら説明しています。マラウイについて知るために、マラウイ人やマラウイの子どもたちとzoomを繋げて、英語で会話したりすることもあります。自分たちの支援先と直接交流することができるため、より身近に感じる機会になっています。

さらに、企業の社会的責任（CSR）活動について学ぶため、企業の方に講演をお願いしたり、海外の大学生による講話を開催したりと、幅広い視点から学ぶ場を提供しています。

最終的には、生徒たちはマラウイ産商品の販売に向けて、価格設定や販売方法、プロモーション計画を主体的に進めます。

また、授業料として寄付をいただくだけでなく、販売活動を通じて得た売り上げの一部を寄付し、支援の輪を広げる取り組みを行っています。



# 教育事業

## ケーススタディ1

### 光塩女子学院 中等科・高等科

### 特別講座「国際NPOの活動に参加してみよう！」



光塩女子学院での授業は、2023年度から始まりました。

現在、補習特別講座として開講されている「国際NPOせいぼの活動に参加してみよう！」を担当させていただいています。

2年目となる今年は、様々な角度からせいぼの活動を知り、多角的な視点を持ちながらソーシャルビジネスについて学ぶ機会を提供しました。

5月から講座が始まり、まずはNPO法人せいぼ、マラウイという国、マラウイコーヒー、フェアトレードといった基礎知識について授業を行いました。

その後、「りそな銀行サステナビリティ推進室」の方々を招き、企業が考えるSDGsについてお話を伺いました。授業ではCSR調達をテーマに、ゲーム形式で学び、企業チーム、消費者チーム、地域コミュニティチームなどに分かれて活発な議論が行われました。

また、南アフリカで小学校の先生として1年間活動していた大学生をお招きし、現地での生活やアフリカのリアルな体験、大学生でも行動を起こせる可能性など多くのことを学びました。

その他、元バリスタで現在は整体師として活躍されている方から、コーヒーの淹れ方や「循環」という視点からマラウイの支援と繋げてお話をいただきました。

これらの内容は、11月の親睦会に向けて重要な学びになりました。



親睦会が近づくと、生徒たちは販売方法や宣伝方法、商品の内容や説明、価格設定などを議論し、それぞれが自分の役割を果たして準備を進めました。特に、価格設定に関する議論は白熱し、「いくらで売れば、より多くのマラウイの子どもたちを支援できるのか」「お客様にとって魅力的な商品価格とは何か」を生徒たちは真剣に考えました。

また、宣伝用のポスターやマラウイの情報をまとめた資料、ステッカー、当日説明用のスライドなど、各自が役割を持ち準備を進めました。

前日準備では、朝からみんなで協力しながら会場設営や確認など翌日の準備に取り組みました。

# 教育事業

## ケーススタディ1

### 光塩女子学院 中等科・高等科

### 特別講座「国際NPOの活動に参加してみよう！」

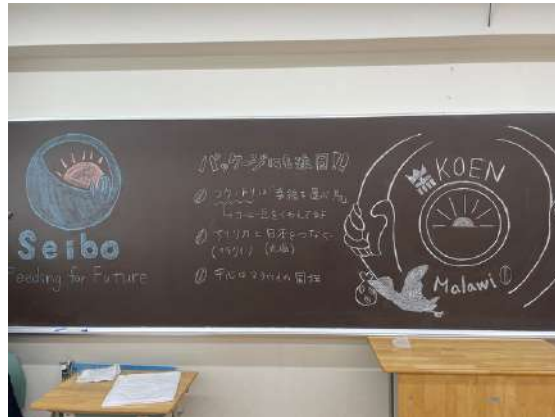
当日は午前組と午後組に分かれ、シフト制でコーヒーの販売とマラウイの紹介を行いました。

販売商品は、マラウイ産コーヒー豆・粉、ドリップバッグ、その場で飲むコーヒーの3種類です。生徒たちは、コーヒーを淹れる担当、マラウイの国紹介担当、コーヒーの販売担当、校内を歩いて宣伝をする担当に分かれ、それぞれの役割を果たしました。

販売開始から1時間半でコーヒー豆・粉は売り切れ、3時間後には飲むコーヒーも完売しました。最終的にはドリップバッグもすべて売り切れとなり、大成功を収めました。

その過程で、手が空いた生徒たちは校内を移動販売する形に変更したりと臨機応変に対応しました。

最終的には、9時から15時の1日で**436,400円**の売り上げを記録しました。これは、前年の売り上げの倍以上であり、生徒一人一人が積極的にマラウイの子どもたちの支援に関わった結果だと感じています。



#### 参加者の声

今年からせいぼの授業を受け始めて、自分の視野がどんどん広がっていくのを感じました。普段はなかなか経験することのできない海を越えた交流や支援、これからの社会を担っていく私たちが世界のためにすべきことなど、学校の授業では習わないけれども大切なことを多く学ぶことができました。

高等科2年 荒木さん

私は今年からせいぼの授業を取り始めて、自分に出来ることは何かを常に考える1年になりました。りそな銀行の方をはじめ、多くの方から直接お話を聞く機会があり、多角的に物事を捉えるきっかけとなりました。マラウイのことからコーヒーの淹れ方まで幅広く深く学び、学んだ事を活かして親睦会で販売するという、双方向の学びが得られたと思います。

また、高2として準備の段階から臨んだ親睦会では昨年の2倍の売り上げがあっただけでなく、多くのお客様にせいぼの活動を紹介することができ、支援の輪を広げるという意味でも、とても良い1日となりました。お客様にどのように説明するのかを考えていく中で、授業で学んだことを自分の中で形にしてアウトプットすることで、より深く理解することができました。

高等科2年 三神さん



# 教育事業

## ケーススタディ2

### リザプロ株式会社

### 「コーヒー販売を通して給食支援へ！」

2024年7月21日・28日、様々な体験型学習や英語指導等の事業を行うリザプロ株式会社と協働し、小学生から高校生を対象に、マラウイ産コーヒーや紅茶の販売を通じてマーケティング、セールス、国際開発について学ぶ実践プログラムを実施しました。



#### 小学生の部

- マラウイの文化や学校給食の重要性を学び、15円の給食支援の価値を理解
- 生産者への想像力を働かせながら、支援商品のラベルをデザイン

#### 高校生の部

- マラウイの国際情勢や支援方法を学習
- 販売戦略を立案し、実店舗での販売を体験
- 振り返りを基にブログやSNSを活用したデジタルマーケティング戦略を考案



#### 活動の成果

小学生：活動を通じて約2,400食分の給食支援を達成

高校生：活動を通じて約93,000食分の給食支援を達成

#### 参加者特徴と全体の評価

高校生は経済、マーケティング、国際支援などへの関心が高く、多様な分野に興味を持ち、活動に積極的な学生が参加してくれました。

プログラム終了後、参加者には終了証を発行し、学びを入試や大学での学習に活かせるよう支援を受け、次のステップに繋がる活動となりました。

この活動によって、マラウイの支援だけではなく、日本の子どもたちの意識を変え、起業家精神、SDGsの狙いに繋がる内容の実践的応用となりました。

今後、皆様がマラウイの支援で学んだノウハウを、色々な形で応用することで、様々な分野で活動してくれることを期待しています。



プログラム詳細は  
こちらをご覧ください  
[prtimes.jp/main/html/rd/p/00000042.000063446.html](https://prtimes.jp/main/html/rd/p/00000042.000063446.html)



# コーヒー事業



WHCCインスタグラムでは  
商品についてや有益な情報を  
日々発信しています  
[www.instagram.com/  
warmheartscoffeeculub/](https://www.instagram.com/warmheartscoffeeculub/)



## 1年の概況

定期購入を含むオンライン販売、日本全国でのイベント、教育事業の一環として行う文化祭等での販売など、今年も多くの場でコーヒー販売を行うことができました。その結果例年以上の売り上げを記録し、より多くの金額をマラウイに送金することが可能となりました。ハードルの高い国際支援をコーヒーを通して行うことができることにより、多くの方々にマラウイや貧困などの現状について知っていただく機会となりました。



## 私たちのコーヒー

私たちのマラウイ産コーヒー事業は2018年より開始しました。当初私たちのミッションに共感していただいたアタカ通商を通して、現在もマラウイから安定的に日本国内にコーヒーが輸入されています。私たちのコーヒーは購入することによって、マラウイの子どもたちの学校給食につながっているだけではなく、コーヒーの需要を作り出すことによる農家の方々への間接的な支援にもなっています。



## 紅茶輸入・販売再開

2024年前期、せいぼはマラウイ南部に位置するサテンワ農園より紅茶を輸入しました。サテンワ農園の紅茶は、フェアトレード認証とレインフォレスト・アライアンス認証を受けており、農園自体も農民の健康や高い質の労働環境、子どもたちの高等教育支援などを行っており、とても社会性の高い商品です。この紅茶の販売を通して、生産者の生活向上はもちろん、利益のマラウイの子どもたちへの還元を目指しています。





# 支援企業の皆様

## 概要



NPO法人せいぼは、様々な形で企業と連携し、アフリカ・マラウイの学校給食支援を行っています。具体的には、直接寄付をいただいたり、マラウイ産コーヒーを社内外でギフトとして利用いただいたり、講演をさせていただくこともあります。

特に支援に繋がるマラウイ産フェアトレードコーヒーを、企業様に導入いただいたり、SDGsの啓発に繋がるワークショップに使用していただくことで、社内での社会貢献の見える化、日常の中での国際支援との繋がりを感じていただいております。

さらに、NPO法人せいぼの学生との多様な繋がり、他の支援企業との協働の背景を用いて、支援企業様にも共創の機会を提供するイベントや講演会を実施しています。そのことで、社会貢献と企業理念に繋がる商品を開発したり、企業PRに繋がったりしています。

今後も、積極的に企業様との繋がりを増やし、日本の経済が世界に影響を与えていける世の中、そして人々の意識的な変化をもたらしていきます。

支援企業の皆様については  
こちらをご覧ください  
[www.seibojapan.or.jp/  
support/corporate/](http://www.seibojapan.or.jp/support/corporate/)



## ケーススタディ

### 株式会社テーブルクロス [byFood.com](http://byFood.com)



NPO法人せいぼと株式会社テーブルクロスは、マラウイの学校給食支援を目的に協働しています。

具体的には、テーブルクロス株式会社が運営するウェブサイトbyFood.comを活用し、ユーザーがアプリを通じて飲食店を予約するごとに寄付金が発生します。その寄付金がマラウイの学校給食の提供に充てられています。2024年は合計約300万円の寄付をいただきました。

1食15円で提供可能な給食支援を通じて、マラウイの子どもたちへ栄養改善や教育環境の向上を実現しています。この協働は、社会貢献とビジネスを結びつけた取り組みとして注目されているだけでなく、食と教育というSDGsの中でもとても重要な要素にアプローチしている点で効果的とされています。

株式会社テーブルクロスの  
取り組みについては  
こちらをご覧ください  
[tablecross.com/ja/sdgs/](http://tablecross.com/ja/sdgs/)



# 日本チーム

## 概要



NPO法人せいぼは、代表スタッフをはじめ、パートタイムスタッフ、学生・社会人ボランティアなど、日本全国の多種多様なメンバーによって運営されています。

また、定期的に海外からのインターン生が参加し、日本に住む英語話者やその他コミュニティーにもアウトリーチすることが可能となっています。

年代や国籍が違う幅広いメンバーが各自の特徴を活かしながらお互いが密なコミュニケーションをとって、日々マラウイの子どもたちのために尽力しています。

## 学生チーム



学生チームオリジナルロゴ

NPO法人せいぼには大学生を中心に、高校生、中学生など、多くの学生スタッフも携わっています。

中でも国際協力や開発、ソーシャルビジネス、教育などのテーマに関心を持つ学生が多く、自身の知見や専攻などと結びつけて活躍しています。

マラウイの子どもたちの未来のためという共通目標のもと、マラウイとの定期的なコミュニケーション、ソーシャルメディアの運用、学校での授業の実施、月次ニュースレターの作成、イベントでのコーヒー販売など多様な分野でそれぞれの強みを活かし、活動を行っています。





# 日本チーム

## Staff Focus

### 学生スタッフ 歌代みのり



#### Q. ご自身について簡単に教えてください

A. 立教大学法学部政治学科4年の歌代みのりです。  
大学では国際政治を学んでおり、特に貧困や難民問題に関心を持っています。  
現在はカフェでアルバイトをしていて、コーヒーが大好きです。

#### Q. せいぼでの役割について教えてください

A. 主に教育事業と「Warm Hearts Coffee Club (WHCC)」のInstagram運用を担当しています。

教育事業では、中学校や高校を中心に授業を行っています。一方的にマラウイやせいぼの情報を伝えるのではなく、双方向のコミュニケーションをとることを重視しています。生徒が興味を持てるように工夫し、「どうすればより関心をもってもらえるか」を常に考えながら授業を行っています。授業内で使用する資料作成も重要な業務の一つです。

WHCCのInstagram運用では、マラウイコーヒーや私たちの活動をより多くの人に知っていただけるよう発信を行っています。定期的な投稿を通じて、既存のフォロワーの方と、新たに関心をもってくださった方の双方に情報をお届けしています。マラウイのスペシャルティコーヒーが子どもたちの支援に繋がる仕組みは、とても魅力的だと感じています。

その他にも、学生ボランティアとのコミュニケーションをとって円滑に活動を行ってもらうための手助けや、その他事務作業も担当しています。

#### Q. せいぼに関わり始めたきっかけを教えてください

A. きっかけは、立教大学のボランティアセンターに募集があったのを見たことでした。高校時代に読んだアフリカの貧困に関する本に衝撃を受け、大学では貧困や難民について学びつつ、ボランティア活動を通じて何らかの形で関わりたいと考えていました。

そんな時に偶然、ボランティア募集の記事を見ました。

アフリカの支援、特に子どもたちの笑顔を増やすというところや、コーヒーを扱っている点に興味を持ちました。また、カフェのアルバイトで培ったコーヒーの知識などを活かすことが出来ると思い、代表の山田さんにメールを送りました。すぐに返信をいただき、ミーティングを通じて私の興味や希望をじっくり聞いていただけたことで、より深く関わりたいと思うようになりました。

WHCCインスタグラムは  
こちらからご覧ください  
[www.instagram.com/warmheartscoffeeclub/](https://www.instagram.com/warmheartscoffeeclub/)



# 日本チーム

## Staff Focus

### 学生スタッフ 歌代みのり



#### Q. せいぼの仕事のやりがいやユニークな点を教えてください

A. せいぼでの活動は、その他のNPO法人でのボランティア活動とは大きく異なっていると感じています。中でも、大きな魅力は「自分がやりたいことを想いのままに形に出来る環境」にあると思います。

一人一人、興味を持っているテーマや関わりたい理由は違うと思います。そうした思いに寄り添いながらサポートしてもらえることが、楽しく活動が続けることができています。

私自身、貧困や難民問題について知識を学生に広げたいという思いがあり、それを山田さんに伝えたところ、せいぼの教育活動に携わる機会をいただきました。授業や講演会を通じて、自分の強みである人と積極的にコミュニケーションをとることを活かしながら、社会貢献活動ができていくことに、とても感謝しています。

#### Q. せいぼの活動に興味を持っている方々へメッセージをお願いします

A. 上記の通り、せいぼでの活動は「これだけをやればいい」と決まっている仕事は少なく、自分の興味や得意分野を活かすことが出来ます。

例えば、コーヒーが好きな方、貧困問題に関心がある方、SNS運用を試してみたい方、フェアトレードに興味がある方など様々な背景を持つ方が活躍できる環境です。

国際支援と聞くと、難しく感じるかもしれませんが、あなたの活動が遠く離れたアフリカに届くという経験はとても特別で面白いものです。

せいぼには中学生、高校生、大学生、社会人と幅広く様々な経歴を持った方がいます。

「マラウイやアフリカの子どもたちのために」という共通の信念を持ったスタッフと一緒にぜひ活動してみませんか？

いつでもお待ちしております！



# 表彰実績・掲載記事

## 表彰

### 2023年度教皇フランシスコ来学記念表彰【3月】

(学校法人上智学院)

この表彰は、教皇フランシスコのメッセージ『叡智の座の大学で学ぶ者へ』の中に込められている様々な課題への取り組みを支援するために2020年度に設立されたもので、弊団体は「マラウイにおける学校給食支援」の活動を評価いただき、受賞しました。



### 2024年度ソーシャルプロダクツ賞【3月】

(一般社団法人 ソーシャルプロダクツ普及推進協会)

ソーシャルプロダクツ・アワード (SPA) は、持続可能な社会の実現につながる優れた商品进行评估する表彰制度で、「Warm Hearts Coffee Club」が受賞しました。審査員の方々には、一方的な支援ではなく、主に学生を中心とした多くの人を巻き込んだ販促方法による、次世代の意識・実践的行動への影響を評価いただきました。



## 掲載記事

\*一部掲載/公開順



イントレプレナーとしてマラウイに毎日17,000人分の食事を届ける ~せいぼじゃぱん 山田 真人~  
(COCOCOLOR EARTH)



アフリカの子どもたちに給食を届けるNPO法人「せいぼじゃぱん」とは？代表に活動内容を聞いてみた！  
(Ameba塾探し)



アフリカで給食事業?! NPO法人「せいぼじゃぱん」がマラウイの子どもたちに給食を配るワケ【連載記事】  
(探究ゼミ)



NPO法人せいぼじゃぱん | 給食支援を通じたチャリティ文化の普及で、日本とマラウイの未来を創る  
(Spaceship Earth)

# イベント

2024年も様々な場所でマラウイについてのお話やマラウイ産コーヒーを販売させていただく機会に多く恵まれました。ここでは一部イベントについて紹介させていただきます。

## 「コーヒー好き集まれ！コーヒーから見えるエシカルな社会」(3/20、5/13、8/03)

このイベントはNPO法人せいぼ、上智大学公認学生団体Green Sophia、そして中央大学フェアトレード委員会（FACT）が主体となって開催した、フェアトレードやエシカル消費がテーマのイベントです。2024年の1年間で3回開催し、上記のようなテーマや社会問題などに関心を持っている、特に若い世代が多く参加してくださいました。

また、第3回にはアタカ通商代表取締役社長である荒木様をお招きし、商品のサプライチェーンやコーヒー2050年問題などに関するご講演をしていただきました。



第1回開催時の様子



第2回開催時の様子



第3回開催時の様子

## 「まちラボワークショップ」(12/07)

このイベントは産官学民連携による社会問題解決型の研究施設である文京学院大学まちづくり研究センター（まちラボ）で行われたイベントで、せいぼはコーヒー販売と、コーヒーかすを利用した針山づくり体験を行いました。

当日はせいぼのブースの横で淹れたてのマラウイ産コーヒーを販売して下さり、コーヒーを飲みながらマラウイについて話をしたり、ワークショップを行うとてもいい機会となりました。





今後に向けて

---





# ターゲット

これまでせいぼじゃぱんとせいぼマリアは協働してマラウイの子どもたちに学校給食を届け、子どもの数は現在約18,000人、支援学校数は約60校にまで増やすことができました。この活動をより継続的に行い、そして拡大を目指すために、二つの団体のパートナーシップ目標として以下のような目標を設定しました。

まず2025年の目標である短期目標として、給食原料購入費を除く給食分配やモニタリング費用などのせいぼマリア運営費用の約半分を、せいぼじゃぱんから継続して支援する目標を設定しました。約3年後の中期目標としては、運営費用全額をせいぼじゃぱんから支援、そして長期目標として、安定して運営費用全額を負担する支援モデルを構築することを目標として設定しました。また、学校給食支援に付随して、石鹸や簡易水道などの衛生用品の配布や、井戸やキッチンなどの給食の調理に必要なインフラも同時に引き続き行っていきます。

これらの目標を達成するためにせいぼじゃぱんでは、募金活動や教育事業などを継続していくとともに、さらなる拡大を目指していきます。また、マラウイの特定の要望に応じてファンドレイジングプロジェクトの実施なども予定しています。このために、団体間の情報共有体制の確立や正確な情報の収集などを徹底してまいります。

今後も2団体をはじめとした、すべての関係団体・法人との協力体制をより一層深め、活動の拡大に努めてまいりますので、今後ともご支援よろしくお願いたします。

短期目標 (約1年後)	<ul style="list-style-type: none"><li>運営費用（給食分配、モニタリング費用など）の半分の費用（約5万ドル）をせいぼじゃぱんが負担する</li><li>統一した給食支援数等のデータ収集を行い、正確な数字の管理、記録を行う</li></ul>
中期目標 (約3年後)	<ul style="list-style-type: none"><li>運営費用の全額（約10万ドル）をせいぼじゃぱんが負担することを開始する</li></ul>
長期目標 (約10年後)	<ul style="list-style-type: none"><li>継続的にせいぼじゃぱんがせいぼマリアに対して運営費用全額を負担し、持続可能な支援モデルを構築する</li><li>支援学校数を拡大する</li></ul>





# 最後に

---

2024年も、多くの方々の温かいご支援とご協力に支えられ、せいぼとしてマラウイの子どもたちへの学校給食支援を継続することができました。

日々約18,000人の子どもたちに給食を届け、それが現地のコミュニティ支援にも繋がり、特に現地の女性が社会で活躍できる状態に貢献することにも繋がりました。

2024年はまだサイクロンや地球温暖化による農作物の不作が続き、困難な状態が続きました。その中で、子どもたちの安全と日々の基礎的栄養が担保される上で、学校給食はとても重要で、現地の人々にとって歓迎されるものでした。

また、日本国内でも、次世代を担う子どもたちが国際協力や社会貢献について学ぶ機会を提供することで、未来への種をまく活動を広げることができました。

協働している学校の数は30校以上となり、特に中学生高校生の探究学習、課外活動において、マラウイに対する大きな支援、成果を一緒に作り上げることができたことは、何にも代えられない素晴らしい体験となりました。

こうした活動によって、人口が増えていくアフリカ大陸の小さな国、マラウイの未来を変える、すなわち世界の未来を変えていく活動を、日本の未来を支える次世代の学生と共に実施でき、とても光栄に感じております。

そして、ご支援を頂いたご個人の寄付者の皆様、そして企業の皆様も、ありがとうございました。個人の方にはイベントや講演会でお会いし、コーヒーを通しての寄付や給食支援に賛同し、ご支援を頂いた方が多くいらっしゃいます。

おかげさまでコーヒー定期便の登録者も110人を超え、多くの人々にマラウイコーヒーの風味と、その温かい支援の輪を広げることができています。

支援を受けたマラウイの子どもたちが笑顔で学び続けられる姿を見るたびに、皆様からの支援の力を強く感じています。

一方で、世界にはまだ多くの課題が残されています。貧困や飢餓、不平等といった問題は私たちの手を止めることなく、これからも一歩ずつ歩み続けるべきことを教えてください。

2025年も「一人でも多くの子どもに未来の希望を届ける」という信念を胸に、皆様と共に活動をさらに進化させていきたいと思っております。

今年もせいぼを信じ、支えてくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

2025年が皆様にとって素晴らしい年となることをお祈り申し上げます。

ありがとうございました！


せいぼじゃぱん理事長・代表  
山田 真人



せいぼ公式キャラクター  
「ボーくん」



**特定非営利活動法人 聖母**

 東京都北区赤羽西6-4-12

 [info@seibojapan.or.jp](mailto:info@seibojapan.or.jp)

 [www.seibojapan.or.jp](http://www.seibojapan.or.jp)

**編著**

平野 健太郎（学生スタッフ）

**執筆**

歌代 みのり（学生スタッフ）

山田 真人（理事長・代表）

Victor Mthulo（せいぼマリア）

Future Namacha（せいぼマリア）